クビアカツヤカミキリのフラス調査マニュアルについて

岐阜県環境エネルギー生活部 自然環境課

【はじめに】

クビアカツヤカミキリは、サクラやウメ、モモなどの樹木を内部から食害し、枯死に至らせる特定外来生物です。被害木は景観の悪化だけでなく、枝折れや倒木による事故を引き起こすおそれがあり、施設管理上の大きな課題となっています。

本種は一度定着すると根絶が困難であるため、被害の初期段階で寄生木を発見し、幼虫を駆除することが重要です。

幼虫が木の内部で活動する時期には、「フラス」と呼ばれる木くずと糞が混ざった特徴的な排出物が樹木の外へ出されます。フラスは被害木を発見する最も有効な手掛かりであり、早期発見・早期防除につながります。

岐阜県では既に県内各地で本種の侵入が確認されており、被害の拡大が懸念されています。クビアカツヤカミキリの寄生の疑いを示すフラスは 10 月まで排出されます。被害拡大を防ぐためには、今、木の中にいる幼虫を発見し、成虫として飛散する来年初夏までに徹底した調査及び駆除を行う必要があることから、フラス調査を実施することとしました。

【クビアカツヤカミキリとは】

- 中国などを原産とする特定外来生物であり、国内では関東地方、中部地方、近畿地方を中心に分布が拡大しています。
- 主にサクラ、ウメ、モモなどのバラ科樹木に寄生し、幼虫は樹木内部を食害しながら成長します。
- 被害は外見から確認しにくいため、樹木から排出される「フラス（木くずと糞の混合物）」を確認することが被害木の発見に有効です。
- 成虫は全体が黒色で、胸部が赤色をであることが特徴です。



初夏（６～８月）に出現する
クビアカツヤカミキリの成虫
出典：環境省

【岐阜県内の被害状況】

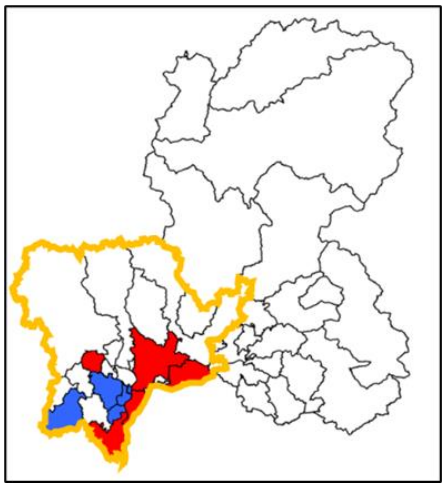
・県内では岐阜地域、西濃地域、揖斐地域で本種の侵入が確認されており、以下の市町村ではクビアカツヤカミキリの被害木が存在する可能性が高いことから、調査重点地域として設定されています。（R8.10 月時点）

＜調査重点地域＞

赤色：成虫または幼虫発見地域
（海津市、各務原市、羽島市、池田町、岐阜市）

青色：フラス確認地域
（海津市、各務原市、羽島市、輪之内町、岐阜市、安八町、大垣市）

黄色：被害を受けた市町村が近隣にある地域
（関市、美濃市、山県市、瑞穂市、本巣市、岐南町、笠松町、養老町、垂井町、関ケ原町、神戸町、揖斐川町、大野町、北方町、坂祝町）



【皆様への依頼事項】

・所有施設内の対象樹木にフラスがないかを確認してください。
・被害がある樹木を発見した場合は、多治見市（環境課）へ報告してください。

【フラスの探し方】

・サクラ、ウメ、モモなどの対象樹木の根元や幹の周辺を目視で確認します。
・幹の割れ目や傷口、枝の分岐部などから、木くずと糞が混ざった「フラス」が排出されていないか確認します。
・フラスは赤褐色から茶褐色の細かい木くず状で、株元や樹皮のくぼみに堆積していることがあります。
・フラスを発見した場合は、排出箇所及び周辺に追加のフラスがないか確認し、被害木として記録してください。

【フラスの見分け方】

・クビアカツヤカミキリのフラスは、木くずと幼虫の糞が混ざったもので、赤褐色から茶褐色をしているのが特徴です。
・粒状または細長い木くず状で、水分を含むと粘り気を帯びることがあり、樹皮の割れ目や根元に堆積している場合があります。
・新しいフラスは鮮やかな赤褐色を示し、排出されたばかりのものは湿って見

えることがあります。
・古いフラスは乾燥して色が薄くなり、雨により流されたり固まったりしていることがあります。
・単なる木くずや落葉と異なり、樹幹の孔や亀裂から継続的に排出されている場合は、幼虫による被害が疑われます。



太いフラス



細いフラス



おが屑状のフラス

出典：本種被害の確認ポイント「フラス、樹液」
東京都環境局

【樹種の見分け方】

フラス調査を効率的に実施するためには、クビアカツヤカミキリの主な寄主植物であるサクラ、ウメ及びモモを正しく見分けることが重要です。ここでは、現地での目視確認に役立つ各樹種の特徴を紹介します。

（１）サクラの特徴

・樹皮の色　：赤褐色～茶褐色、全体的に明るめの色
・樹皮の模様：ほかの樹種と比べて横方向の線（横じま模様）が目立つ
・樹皮の印象：若木はツルツルしており、古木でも比較的なめらか
・葉の特徴　：大きく幅広い楕円形から卵形、葉長は８～12cm



サクラの木



サクラの樹皮

（２）ウメの特徴

・樹皮の色　：黒褐色～暗灰色、古木ほど黒くなる
・樹皮の模様：ゴツゴツした凹凸が多く、縦方向の割れ目が目立つ。
・樹皮の印象：ザラザラ、ゴツゴツして荒れた感じ
・葉の特徴　：サクラよりやや小さい楕円形から卵形、厚みがありしっかりしている



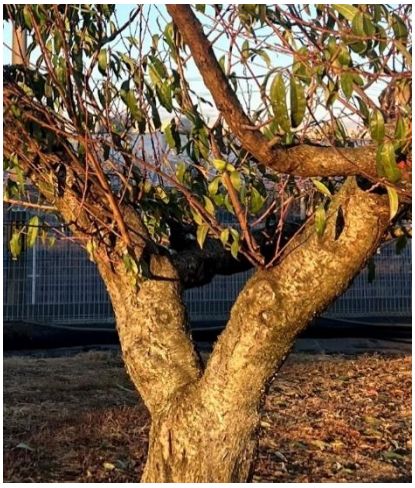
ウメの木



ウメの樹皮

（３）モモの特徴

・樹皮の色　：灰色から灰褐色（少し茶色がかった灰色）
・樹皮の模様：幹に細かい横線が見られるが、サクラほど横線は多くない
・樹皮の印象：ウメほど荒々しくなく、サクラほど滑らかでもない
・葉の特徴　：細長い楕円形、葉長はおおよそ７～15cm 程度で葉の縁に細かなギザギザ（鋸歯）がある



モモの木



モモの葉

（４）スモモの特徴

・樹皮の色　：灰褐色から暗い灰色、ウメほど黒くない
・樹皮の模様：サクラほど目立たないが、横線（しま模様）が見られる
・樹皮の印象：サクラとウメの中間的な印象
・葉の特徴　：楕円形から長楕円形、葉長は５～10cm 程度で葉先はとがっているがモモほど細長くない



スモモの花



スモモの葉と結実

出典：公益財団法人船橋市公園協会

【防除の方法】

クビアカツヤカミキリのフラスが確認された樹木は、幼虫が寄生している可能性が高いため、防除を実施する必要があります。

※被害を放置すると樹木内部の食害が進行し、枯死や枝折れ、倒木につながるおそれがありますので、代表的な防除対応について提示します。

＜伐採＞

【技術 11】被害材の伐採および伐倒木の処理(破砕・焼却・くん蒸)

駆除	幼虫・蛹	秋～春	全ての樹木

被害木を伐採し、物理的に破砕・焼却・くん蒸することで、樹木内に生息している幼虫および蛹を駆除します。

資材・道具	**コスト**
チェーンソー、脚立、ブルーシート、モルタル、チッパー、運搬用の車など	サクラ：数万～数十万円程度／本 果樹：数万～数十万円程度／10a **所要時間** 1 日程度

手順

1．伐採 被害木の伐採は、成虫の出現期以外（クビアカツヤカミキリの場合、9 月～翌 4 月）に実施する必要があります。 被害木が大きい場合は、上方からクレーンで吊り上げるなど、大掛かりな作業となります。 伐採後も材内の幼虫や蛹は生存できるため、そのままにすると成虫が出てきてしまいます。被害材はすみやかに処分しましょう。	

2．処理 伐倒木は、成虫が出てくる時期までに破砕・焼却・くん蒸のいずれかの処理を行います。 事前に自治体に連絡のうえ、逸出防止措置（虫が出てこないよう対策すること）をとれば、生きた幼虫や蛹が入った材を処理が可能な場所まで運搬することが可能です。	

コツ・ポイント

・被害木はできるだけ下方（地際）から伐採します。被害が目立たない部位にも、幼虫や蛹が入っている可能性があります。

・伐採後の切株も除去（抜根）することが望ましいです。抜根が困難な場合は、くん蒸処理やモルタルによる被覆処理を実施します。

利点

・被害木ごとに完全に駆除できるため、最も効果的な物理的防除のひとつです。

留意点

・破砕・焼却・くん蒸以外の処理（被害材を土に埋める等）は有効性が実証されていないため、行わないでください。

・地域により、焼却施設やチップ工場の有無などの状況が異なるため、処理方法を事前に確認します。

・破砕を行う場合は、チップの厚さが 1 cm を超えないようにしてください。

・野焼きは「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により原則禁止されています。

・発生程度に基づく伐採基準

侵入初期

- 発生調査で被害木をいち早く発見して伐採、局所的に根絶を目指す
- **被害木すべてを伐採駆除**

被害中程度

- モニタリング強化と化学・物理的防除の徹底を目指す
- フラス排出数で木の状態を評価

0：被害なし
1～3か所：軽度
4～9か所：中程度
10か所～：重度

→ **サクラ：「重度」伐採**（伐採が難しい場合は網掛け）
モ　モ：「重度」「中程度」伐採

被害が甚大

- 伐採と他種植栽・散布の効率化により、密度をまず低下させる
- **伐採**・薬剤散布による効率的な防除
- 他樹種への改植

引用 【クビアカツヤカミキリの防除法】

https://www.ffpri.go.jp/pubs/chukiseika/5th-chuukiseika12.html

より、「地域での総合防除への提言」

https://www.ffpri.go.jp/pubs/chukiseika/documents/5th-chuukiseika12-5.pdf

＜樹幹への薬剤注入＞

【技術 14】殺虫剤の処理：樹幹注入

駆除	幼虫	春～秋	サクラ

被害木に殺虫剤を注入することで、樹内の幼虫を駆除します。

資材・道具	**コスト**
薬液ボトルまたは注入器、殺虫剤、ドリル、画鋲、メジャー、パテ	薬剤 3,000～10,000 円(木の直径によって変わる)、注入器（ウッドスター処理で必要、12,000 円程度） **所要時間** 約 4～8 分/樹・2 人+注入待ち時間（数分～数日）

手順

1．薬剤効果の確認の準備をする
・排糞孔（フラス排出孔）の下に画鋲を刺して目印をつけます。
・排糞孔まわりの樹皮表面、被害木の周囲の地面のフラスを除去します。

2．注入孔の位置を決める
樹幹の地際に近いところで約 10 cm 間隔で、チョークなどで印をつけます。

3．注入孔を開ける
ドリルで注入孔を開けます。木が水を吸い上げる力を利用して、樹内に有効成分を行き渡らせるため、生きている樹幹部に処理します。スカスカした手応えやドリルくずが乾いている場合には、位置をずらします。

4．薬剤を注入する
注入孔に薬液ボトルまたは注入補助器をしっかり刺して、薬剤を注入します。
薬液が樹木内に吸収されたことを確認したら、薬液ボトルまたは注入補助器を取り外します。

5．注入孔を埋める
注入補助器を取り外したら、すぐに専用のパテで注入孔を埋めます。

6．フラスの排出が止まっているか点検する
・処理後約 2 週間～1 か月に、フラスが排出されているかを確認します。
・最初に目印を付けた箇所を中心に点検します。
・フラスが排出されている場合は除去し、数日後にもう一度点検します。
・薬剤が効いていなくてもフラスの排出が一時的に止まることがあります。処理後しばらく経ってからの確認が必要です。

コツ・ポイント

・フラスが止まらない排出孔がある場合、排出孔の直下に注入孔を開けて施工することも可能です。
　ただし、薬剤のラベルを必ず確認し、使用回数を守って使用してください。
・樹幹注入を実施しても幼虫が生き残り、成虫が羽化する可能性があるため、翌年の発生時期までに脱出防止の資材被覆をします。
・葉が茂り、木が勢いよく水を吸い上げる夏期に処理するのが効果的です。
　一方、薬剤によっては冬期にも施工可能です。翌シーズン初期からの効果を期待できます。

利点

・薬剤の飛散がありません。
・樹内の幼虫を駆除することができます。

留意点

・寄生が多い木や衰弱の程度によっては、十分な効果が得られないことがあります。また、注入孔より下部には薬液がいきわたらないため、地際部周辺から根の部にかけて寄生している幼虫に対しては、効果がない場合があります。
・殺虫剤の容器に記載されている方法を必ず確認してください。

（参考：栃木県（2025）クビアカツヤカミキリ防除対策マニュアル改訂第５版　等）

出典：外来カミキリムシ総合対策マニュアル
農研機構

【問い合わせ先】

被害木を発見した場合　⇒　多治見市環境課
Tel　：0572-22-1175
E-mail：kankyo@city.tajimi.lg.jp

判断に迷う場合　⇒　東濃県事務所環境課
Tel　：0572-23-1111
E-mail：c20507@pref.gifu.lg.jp

・フラスかどうかわからない
・フラスがあるが、樹木の種類が不明

クビアカツヤカミキリによる被害を食い止めるため、
みなさまのご協力をお願いします。